

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは7月31日（木）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		8月28日現在	9月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	146.93	138.0	～ 152.0	140.0
	日米金融政策のデカップリングとFRBの信認をテーマに下値を探る				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.168	1.13	～ 1.19	1.16
	ユーロ・円 (円)	171.67	158.0	～ 172.0	162.4
	利下げ期待が高まるFRBと様子見姿勢のECBの対比でユーロは堅調か				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.351	1.33	～ 1.38	1.36
	ポンド・円 (円)	198.56	185.0	～ 200.0	190.4
	英中銀の慎重な利下げスタンスは、対ドルでポンドの下支え要因、対円で上値抑制要因に				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	95.98	90.0	～ 98.0	94.0
	NZドル・円 (円)	86.46	82.0	～ 88.0	85.0
	豪中銀とNZ中銀の金融政策スタンスの違いから方向感が分かれる展開に				
株式 相場	日経平均 (円)	42,829	39,000	～ 43,500	42,000
	ショートカバーも一服し横ばい圏で推移する公算が高まった				
	NYダウ (ドル)	45,637	43,000	～ 48,000	46,000
	決算発表も一服し、横ばい圏での推移を想定				
長期 金利	日本 (%)	1.615	1.50	～ 1.70	1.60
	日本銀行の利上げ期待が維持され長期金利は高止まり				
	米国 (%)	4.203	4.00	～ 4.50	4.25
	FRBの金融政策を巡って一喜一憂する場面もあるだろうが、結局は横ばい圏で推移しよう				

◆ 今月の注目ポイント

信認がテーマとなるFRBと日銀金融政策のデカップリング

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
政治	◎	【日米金融政策】17日FOMCは25bpの利下げが見込まれている。注目は同時に公表される四半期毎の金融政策見通しとパウエル議長の記者会見。見通しはメンバー間の相違が大きくなる可能性は高いものの、中央値としてはマーケット見通しに沿った緩やかな利下げとなり、パウエル議長も追認することとなる。一方19日の日銀会合では早ければ10月利上げの可能性が示唆されよう。日米の金融政策についてはデカップリングが鮮明となる可能性がある。
経済	○	【次期FRB議長人事】9月よりベッセント財務長官が次期FRB議長が面談を始める。候補者は11名。トランプ大統領の意向に沿った利下げに前向きな人選となろう。パウエル氏の後任人事もハセツト氏のような側近中の側近が選出されるようであれば中銀の独立性懸念につながりやすい。短期の金利には低下圧力が働いてもインフレ抑制に対する懐疑的な見方から長期金利には上昇圧力がかかることになる。高値圏で推移する株式市場には上昇抑制要因となりやすいであろう。

◆ アジア通貨見通し

	8月28日現在	9月の予想 (月末値)		
人民元・円	20.64	19.00	～ 21.00	19.58
バーツ・円	4.552	4.10	～ 4.70	4.50
ルピア・円	0.899	0.86	～ 0.94	0.90

◆ 今月の重要日程

2日 (火) 米 8月ISM製造業景況感	17日 (水) 米 FOMC
3日 (水) 米 ページブック	18日 (木) 英 BOE金融政策委員会
5日 (金) 米 8月雇用統計	19日 (金) 日 8月全国CPI
11日 (木) 欧 ECB理事会	19日 (火) 日 日銀金融政策決定会合
11日 (木) 米 8月CPI	30日 (火) 日 8月鉱工業生産
16日 (火) 米 8月小売統計	30日 (火) 豪 RBA理事会

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

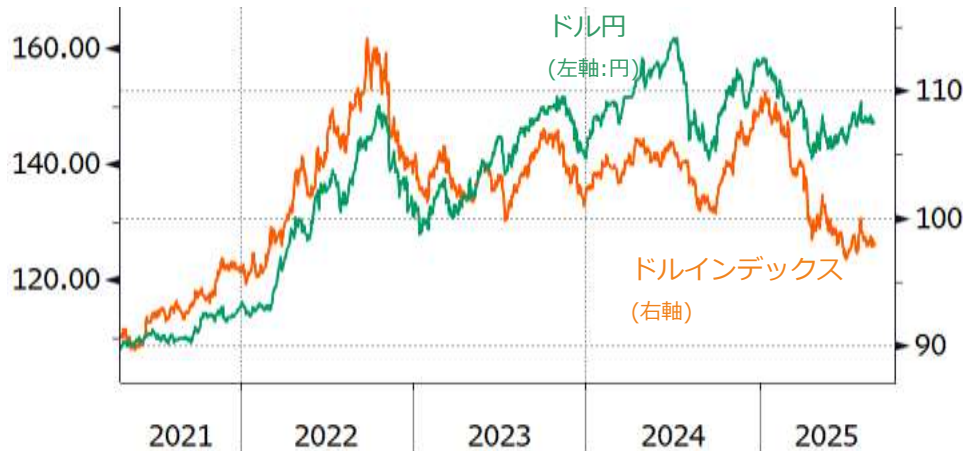
2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

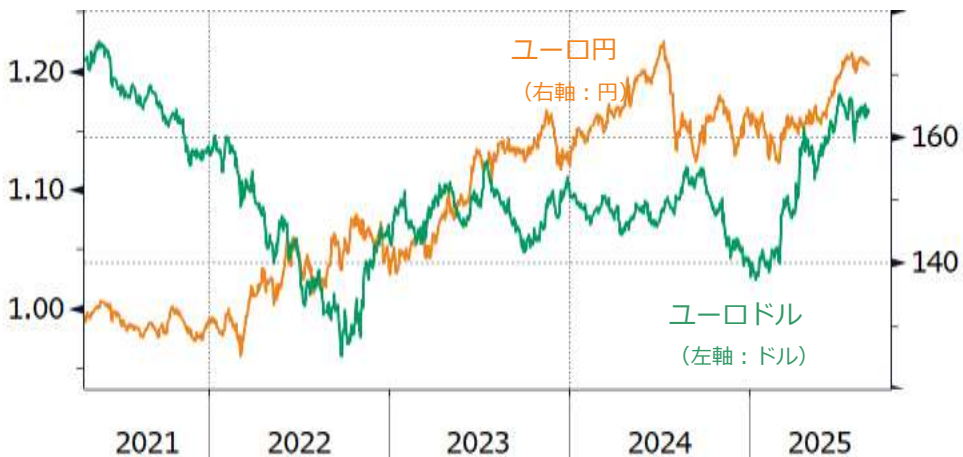
138.00 – 152.00円

日米金融政策のデカップリングとFRBの信託をテーマに下値を探る

8月のドル円相場は急落後もみ合い。7月末の日銀金融政策決定会合で植田日銀総裁発言がハト派と捉えられ4月以来の150円台乗せとなっていたが、月初公表された7月雇用統計で5-6月分の非農業部門雇用者数が大幅に下方修正され、急落。一気に147円台まで下落した。その後は上下振れるも146-149円と狭いレンジでの推移にとどまった。ベッセント財務長官が9月50bp利下げの必要性に言及し146円台に下落する一方、ジャクソンホールでのパウエルFRB議長のタカ派発言警戒から148円台に上昇する場面も見られた。

9月のドル円相場は下値を探る展開を予想する。ジャクソンホールでのパウエル議長の講演は9月利下げに道を開く内容となった。9月に公表される雇用統計や物価指標が強い数字とならない限り、利下げが実施される可能性が高い。一方、日銀は9月据え置きが見込まれるが、次回利上げに道筋を残すものとなる。日米金融政策のデカップリングに焦点が当たればドル円の上値は重くなりやすい。また秋にかけては次期FRB議長が決定する見通し。解任されて係争中のクック理事の行方を含めて、先行きのFRBの金融政策への懸念は高まりやすく、ドルの上値を抑えるであろう。

ユーロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.13 – 1.19ドル

ユーロ円

158.00 – 172.00 円

利下げ期待が高まるFRBと様子見姿勢のECBの対比でユーロは堅調か

8月のユーロは、対ドルで持ち直しの動きをみせた。月初の米雇用統計が弱い結果となり、米FRBによる9月利下げ再開への期待が高まったことを背景に、ユーロドルには押し目買いが入り1.16ドル近辺まで上昇。その後もCPIやPMI、妥結賃金などの経済指標が堅調な結果となるなか、ECBが当面は様子見姿勢を続けるとの見方が強まり、ユーロドルは1.16ドル台の底堅い推移が続いた。対円では171~172円台を中心とする比較的狭いレンジでの動きにとどまった。ドル円が147円台前後で安定的に推移したこともあり、ユーロ円の方角感には限られた。

9月のユーロは、引き続き堅調な推移が見込まれる。米国ではFRBの利下げ観測が強まる一方、ECBは当面様子見姿勢を維持する公算が大きく、米欧間の金利差縮小が意識されやすい。対円については、170円台での高止まりが継続するとみられる。ただし、日銀が9月会合などで近い将来の利上げを示唆する場合には、ユーロ円にも下落圧力がかかりやすくなる点には留意が必要だろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

ポンドドル

1.33 – 1.38ドル

ポンド円

185 – 200円

英中銀の慎重な利下げスタンスは、対ドルでポンドの下支え要因、対円で上値抑制要因に

8月の英ポンド相場は①米国の雇用統計が過去分を大幅に下方修正となったことを受けたドル安②7日のBOEの金融政策会合の利下げが5:4と僅差での決定となり金融政策のタカはスタンスが意識されたことから、7月後半に売られた分を徐々に戻す展開となった。ただ先月のピークレベルである英ポンドの1.36ドルや英ポンド円の節目である200円を前に買いが一巡。徐々に上値が重くなる展開となった。

9月の英ポンドは対ドルで戻りを試す展開を想定。トランプ米大統領のFRBを掌握しようとのスタンスは中銀の独立性の観点からドル売りにつながりやすく、ドル以外の通貨の下支えとなろう。前回確認された英中銀のタカ派スタンスを踏まえると、追加の利下げに踏み切るには複数回のCPIの落ち着きを確認する必要がある。9月にも利下げが見込まれるFRBと比較して底堅い動きが予想される。一方対円では上値の重い展開を想定。日銀による利上げの地ならしが徐々に進む中、下値を切り下げる展開を想定する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円

90.00 – 98.00円

NZドル円

82.00 – 88.00円

豪中銀とNZ中銀の金融政策スタンスの違いから方向感が分かれる展開に

8月のオセアニア通貨は、豪ドルが上昇に転じた一方でNZドルは軟調な動きとなった。豪中銀とNZ中銀はいずれも8月会合で利下げを実施したが、豪中銀は今後も慎重な政策判断を維持する姿勢を示したのに対し、NZ中銀は50bpsの大幅利下げも議論されたことから、よりハト派との印象が強まった。このことを背景に、NZドルは月末にかけて上値の重い展開が続いた。一方で、ジャクソンホール会議後には豪CPIの上振れや鉄鉱石価格の持ち直しを受けて豪ドルは上昇に転じ、両通貨の明暗が鮮明となった。

9月のオセアニア通貨は、全体として底堅い推移が想定される。米FRBによる9月利下げ再開への期待が高まる局面では、投資家のリスク選好が強まりやすく、オセアニア通貨にとって支援材料となる。ただし、豪州の経済指標が堅調さを維持する一方で、NZの経済指標が雇用統計などを筆頭に軟調な結果を示す場合、両国中銀のスタンスの違いが改めて意識され、豪ドル堅調・NZドル軟調という構図が継続する可能性がある。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

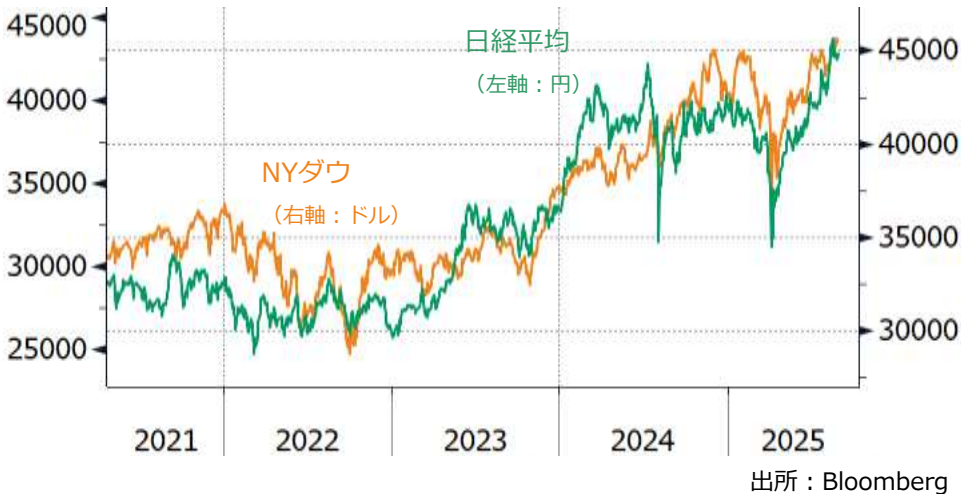
2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

39,000 – 43,500円

ショートカバーも一服し横ばい圏で推移する公算が高まった

日経平均株価のフェアバリューは40,500円程度とみられるが、足元の株価はフェアバリューを大きく上振れている。ファンダメンタルズからは説明が難しい上昇の背景には、ショートのスクイズが関係していた可能性がある。実際、日経平均株価の上昇とは反対に、空売り比率は低下基調であった。ただし、空売り比率は過去の最低水準近辺であり、ショートのスクイズも一服していく公算が大きい。こうした状況下では、株価もレンジ相場入りする可能性が高いだろう。

NYダウ

43,000 – 48,000ドル

決算発表も一服し、横ばい圏での推移を想定

米国株は、日本株程割高感があるわけではないが、急ピッチで上昇してきたこともあり、一旦はレンジ相場を形成する公算が大きい。8月末に発表されたエスビディアの決算も、底堅い内容ではあったが、ハイテク株選好を一層強めるほどではなかった。上下方向のリスクでは、下振れリスクに注意すべきと考える。特に市場はFRBの9月利下げ再開を織り込んでいるため、仮にスキップとなれば、株式市場は失望売りで大きく調整するリスクがある。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

1.50 – 1.70%

日本銀行の利上げ期待が維持され長期金利は高止まり

金融政策に対する直接的な言及ではなかったものの、ジャクソンホール経済シンポジウムの講演で、植田総裁は労働需給の引き締めなどによって賃金の上昇圧力が維持されるとの見方を示した。国債市場では、講演が次回利上げについて前向きな内容と捉えられており、関税の影響が懸念された4-6月期のGDPが底堅い内容となった中で、利上げ期待が維持されていくだろう。政策金利が0.75%に引き上げられることを織り込んだ水準での長期金利の推移が続くと見ている。

米国債10年

4.00 – 4.50%

FRBの金融政策を巡って一喜一憂する場面もあるが、結局は横ばい圏で推移しよう

米金利は4.25%～4.35%程度を妥当値とみているが、FRB人事を巡る材料で、予想ターミナル金利や期待インフレ率に対する感応度が変化している可能性がある点には留意。足元の水準は、妥当レンジを下方に乖離している。もっとも、中長期的な視座に立てば、米経済の深刻なリセッション入りを考慮しない場合、潜在成長率+期待インフレ率が概ね10年金利を規定するため、4%を大きく下回って推移することは想定し難い。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		9月の予想			見通し
中国	人民元/円	19.00	～	21.00	米中貿易交渉が長引くことでドル/人民元は膠着が続く 8月12日が期限とされてきた米中貿易交渉は、11月10日を新たな期限とすることが米大統領令で署名された。現状では関税率を引き下げた状況にはあるものの、米国と中国の貿易交渉が長期化することになり、合意の兆しが見えてこない。米中貿易交渉の膠着状態が継続することで、ドル/人民元は7.1台での推移が継続していくだろう。
	ドル/人民元	7.10	～	7.20	
タイ	バーツ/円	4.20	～	4.70	利下げは一旦打ち止めの公算が高く、方向感なくもみ合う展開を想定 8月のバーツ相場はもみ合い。米国との関税交渉がまとまるなか、米国利下げ観測の高まりからバーツ高が進行。しかし、利下げが実施されると反転し、往って来い。その後、タイ中銀副総裁「これ以上の利下げ余地あり得ない」、金融政策委員会「政策金利は低水準で長期間維持すべきではない」とタカ派コメントが相次ぎ、緩やかなバーツ高に。当面、政治・経済動向を見極めるスタンスが継続することになる。方向感なくもみ合う展開を想定。
	ドル/バーツ	32.0	～	33.0	
インド	100ルピー/円	0.86	～	0.94	日銀の利上げ観測が高まれば、ルピアは対円で軟調か 8月のルピアは、対ドルではややルピア高、対円ではルピア安となった。投資家のリスク選好が強まり米ハイテク株が上昇した局面では、ルピアも買いが優勢となった。しかし、20日の中銀会合で市場予想に反して利下げが実施されると、対ドル・対円ともにルピア安が進行した。9月は、米FRBによる9月利下げ観測が対ドルでの下支え要因となる一方、日銀が近い将来の利上げを示唆する場合には対円での軟調な推移が継続する可能性に留意。
	ドル/ルピア	16,200	～	16,600	

—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2025年						2026年						ポイント
		9月			10～12月			1～3月			4～6月			
ドル円	レンジ	135	～	155	135	～	155	135	～	155	140	～	160	日米の金融政策のデカップリングのテーマが一服。ファンダメンタルズ面での米国への投資拡大や米減税政策を受けて米国が選好される展開に。
	期末値	140			145			145			150			
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.20	1.08	～	1.20	1.08	～	1.20	1.10	～	1.22	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて急速にユーロ高となった。関税合意の進展から一定程度ドル買い戻しの動きもあるが、ECBは当面は様子見とのスタンスが示されたことでユーロは引き続き堅調に推移しそうだ。
	期末値	1.16			1.14			1.14			1.16			
ユーロ円	レンジ	155	～	175	155	～	175	155	～	175	160	～	180	
	期末値	162			165			165			174			
ポンドドル	レンジ	1.30	～	1.40	1.30	～	1.40	1.30	～	1.40	1.25	～	1.35	米国不信を背景とした英ポンド買いの流れが徐々に一服。金融政策面でも米利下げが徐々に一服となり、対ドルでじり安推移。一方対円では底堅く推移。政治的な不安定さから英財政リスクは意識されよう。
	期末値	1.36			1.35			1.35			1.30			
ポンド円	レンジ	185	～	205	185	～	205	185	～	205	185	～	205	
	期末値	190			196			196			195			
ドル人民元	レンジ	7.10	～	7.25	7.10	～	7.25	7.05	～	7.20	7.05	～	7.20	米中の貿易交渉は膠着状態が継続していることから、当面はドル/人民元のレンジ相場は継続する。FRBは9月から利下げを再開していく見込みであるものの、関税によるインフレ懸念もあることから、利下げペースは緩やかとなり、ドル/人民元の下落も緩やかになる。
	期末値	7.15			7.15			7.10			7.10			
人民元円	レンジ	19.00	～	21.00	18.00	～	21.00	19.00	～	21.00	19.50	～	22.00	
	期末値	19.58			20.28			20.42			21.12			
豪ドル円	レンジ	88.00	～	100.00	88.00	～	100.00	90.00	～	102.00	92.00	～	104.00	豪中銀は2月に利下げ局面入りし、今後は漸進的な利下げパスが見込まれる。利下げによる経済回復期待から、次第に豪ドルは上昇局面入りか。
	期末値	94.00			94.00			96.00			98.00			
タイバーツ円	レンジ	4.10	～	4.70	4.20	～	4.80	4.20	～	4.80	4.30	～	4.90	政情不安が一巡すれば、観光業の回復、景気支援策から底堅く推移。
	期末値	4.50			4.50			4.50			4.60			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

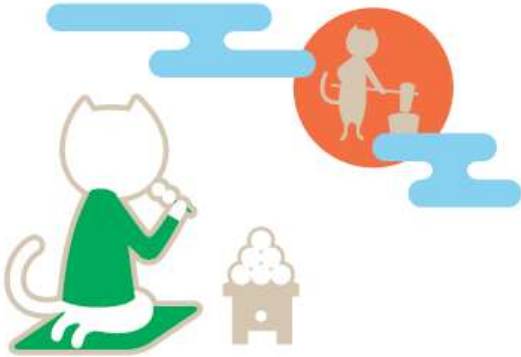
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
9/1(月)	4-6月期法人企業統計調査	(労働感謝の日)	(中) 8月製造業PMI
9/2(火)	10年債入札	8月ISM製造業景況指数	
9/3(水)		7月製造業受注 米地区連銀経済報告	
9/4(木)	30年債入札	7月貿易収支 8月ADP雇用統計 8月ISM非製造業景況指数	
9/5(金)	7月家計調査 7月毎月勤労統計 (速報)	8月雇用統計	
9/8(月)	4-6月期GDP (二次速報値) 8月景気ウォッチャー調査		
9/9(火)		3年債入札	
9/10(水)	5年債入札	10年債入札 8月PPI	(中) 8月CPI
9/11(木)	8月企業物価指数	30年債入札 8月CPI	(欧) ECB定例理事会
9/12(金)			
9/15(月)	(敬老の日)	9月NY連銀製造業景気指数	(中) 8月生産・小売・投資
9/16(火)		20年債入札 8月小売売上高	(独) 9月ZEW景気指数
9/17(水)	20年債入札 8月貿易統計	8月住宅着工・許可件数 FOMC (結果発表)	
9/18(木)	7月機械受注	9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(英) BOE金融政策委員会
9/19(金)	8月消費者物価指数 植田日銀総裁定例会見		

	日本	米国	その他
9/22(月)			
9/23(火)	(秋分の日)	2年債入札 8月中古住宅販売	(欧) 9月PMI (速報値)
9/24(水)		5年債入札 8月新築住宅販売	(独) 9月IFO企業景況感指数
9/25(木)	40年債入札 日銀金融政策決定会合議事要旨(7/30~31開催分)	4-6月期GDP (確定値) 7年債入札	
9/26(金)		8月個人所得・消費支出	
9/29(月)			
9/30(火)	2年債入札 8月鉱工業生産 8月住宅着工件数	9月消費者信頼感指数	(豪) 準備銀行理事会 (中) 9月PMI (中) 9月製造業PMI



◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/1～7】

◎増える外国人旅行者、年間消費14兆円、需要喚起へ

中国ではビザ免除措置の拡大を受けて外国人旅行者が増えている。インバウンドによる2024 年の消費額は942 億米ドル（約14 兆円）に上り、日本の8 兆円1,257 億円を7 割上回る規模になった。中国国家移民管理局によると、全国の25 年1-6 月の外国人出入境数は前年同期比30.2%増、うちビザ免除で入境した外国人は53.9% 増。

中国政府は経済底上げに向けて外国人旅行者の国内消費を増やしたいと考え、受け入れ態勢の整備と需要掘り起こしを進めている。

【8/8～14】

◎車輸入が16 年ぶり低水準か、上期3 割超減、ICEV 低迷で

中国の自動車輸入の落ち込みが鮮明化している。2025 年上半期（1-6 月）の自動車輸入台数は前年同期比32%減の22 万4,502 台。上半期ベースの減少は4 年連続で、3 割以上減少したのは直近8 年で初めてだった。

「新エネルギー車（NEV）」を中心とした中国自動車メーカーの台頭が強く響いている形で、輸入車が伸びる好材料は足元で見当たらない。このままのペースで推移すれば、通年は09 年以来16 年ぶりの低水準となる。

主要経済指標

項目	単位	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
実質GDP成長率	%	4.6	-	-	5.4	-	-	5.4	-	-	5.2	-
消費者物価上昇率	%	0.4	0.3	0.2	0.1	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0
都市部調査失業率	%	5.1	5.0	5.0	5.1	-	5.4	5.2	5.1	5.0	5.0	5.2
輸出額	10億ドル	303.4	308.9	311.9	335.6	324.3	214.8	313.3	315.2	315.8	325.1	321.8
輸入額	10億ドル	221.6	213.1	214.6	230.5	186.2	183.5	211.0	219.2	212.7	210.5	223.5
経常収支	100万ドル	260,144	-	-	423,919	-	-	165,400	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,316.4	3,261.1	3,265.9	3,202.4	3,209.0	3,227.2	3,240.7	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.08	7.11	7.21	7.28	7.31	7.28	7.25	7.30	7.21	7.18	7.17

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利 出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国、AIグラス製品の競争が激化

IT大手のアリババは、上海で開催された世界人工知能大会で社内開発したスマートグラス「Quark AIグラス」を発表し、話題になっています。

上記AIグラスは、ハンズフリー通話・音楽再生・翻訳・会議の文字起こしといった基本機能を備えている他、Alibabaの既存エコシステムと一体化されています。高德地図（中国版Google Map）との連携では、音声による道案内や位置情報サービスを提供します。

Alipayでは、音声コマンドにて即座に決済処理が可能となり、ハンズフリーでの取引が可能です。通販サイトタオバオでは、商品の価格比較や購入手続きを音声で完結できます。日常生活のあらゆる場面に対応でき、消費者の注目を集めています。

AIグラスは、リアルタイム翻訳や電子決済といったスマホの一部機能を代替する水準まで進歩しています。全てハンズフリーで操作することができ、スマホに比べてより快適な体験が可能です。

今年、TCL集団傘下の雷鳥創新や小米科技をはじめとする大手企業から新興企業までAIグラスの新製品発表が相次ぎ、激しい競争が繰り広げられています。

市場調査会社の艾媒諮詢によると、都市部の30歳から40歳の男性を対象に実施した調査では、約3割がAIグラスを購入済みと回答、約5割以上が購買意欲を示しました。

2025年の出荷台数は、前年比3倍の108万台となり、世界の出荷台数585万台の約2割を占める規模になると予測されています。また、2028年の出荷は1,000万台に迫ると見込まれています。

AIグラスの実用化が進む中、政府の後押しにて生産規模が拡大していくとみられています。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2025年6月の景気、前月からやや鈍化

・タイ中央銀行は2025年6月の経済報告書で、輸出や製造業、観光業の減速が影響し、前月と比べて景気はやや鈍化したと発表した。鉱工業生産指数は前年同月比0.6%増と、前月の同1.9%から低下した。自動車や食品の生産減少が響いた。

・民間投資は同15.4%増と前月の同10.4%増から拡大した。機械・設備投資が堅調に推移し、建設投資はやや回復した。民間消費は同0.6%増。耐久・準耐久消費財は増えたものの、非耐久財の消費は減速。サービス分野は同1.8%増と前月の同3.2%から鈍化。外国人観光客の減少により弱含み。観光収入も減少。

◆ EV支援策の国産条件緩和

・タイ国家電気自動車（EV）政策委員会は7月30日、EV支援策の「EV3.0」と「EV3.5」に基づく補助金の支給を受けたメーカーに義務付けるEV国産条件の緩和を発表。大きな変更点として、輸出向け車両の生産を「1台当たり1.5台で算定」する。これによって、2025年に1万2,500台、2026年に5万2,000台のEV輸出が見込まれる。

◆ 米国の相互関税、タイからの輸入関税率19%で決着

・7月31日、米国トランプ政権はタイに対して相互関税を当初の36%から19%を課す方針を発表した。8月7日から発動済み。タイ政府によると、現時点では法的拘束力を持たない暫定的な合意で、今後詳細な交渉を行う。8月末の合意をめどに協議を進めている。

また、米政権は、中国製品の迂回輸出防止に強い関心を持ち、タイ原産品と認める地域付加価値率（RVC）を60%以上（通常40%）に設定するよう求めているとみられる。

◆ 2025年の自動車生産台数見通し、145万台に引き下げ

・タイ工業連盟（FTI）は7月24日、2025年通年の自動車生産台数の見通しを期初の150万台から145万台に引き下げた。国内向けは従来の50万台を維持した一方、輸出向けを100万台から95万台に引き下げた。

主要経済指標

項目	単位	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7
実質GDP成長率	%	3.0	-	-	3.3	-	-	3.2	-	-	2.8	-
消費者物価上昇率	%	0.6	0.8	1.0	1.2	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7
失業率	%	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	25,983	27,222	25,608	24,766	25,277	26,707	29,548	25,625	31,045	28,650	-
輸入額	100万ドル	25,589	28,016	25,833	24,777	27,157	24,719	28,575	28,946	29,928	27,588	-
経常収支	100万ドル	1,205	1,042	1,311	2,128	3,322	5,978	1,782	-1,545	-312	2,442	-
外貨準備高	10億ドル	243.0	238.6	237.5	237.1	242.1	244.8	245.3	256.8	257.6	262.4	261.9
主要政策金利	%	2.50	2.25	2.25	2.25	2.25	2.00	2.00	1.75	1.75	1.75	1.75
対ドル為替レート	バーツ	33.3	33.4	34.5	34.2	34.2	33.8	33.8	33.8	33.0	32.6	32.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2025/8/29

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2025年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2022年	2023年	2024年	2025年 (1～6月)	前年同期比 (%)	6月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	600,839	648,803	558,440	264,668	93.4	51,019
		商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	460,047	96.2	79,204
		合計	1,883,515	1,841,686	1,468,997	724,715	95.2	130,223
	国内販売台数	乗用車	265,069	292,505	224,148	117,482	98.5	19,397
		商用車	584,319	483,275	348,527	185,212	98.2	30,682
		合計	849,388	775,780	572,675	302,694	98.3	50,079
	輸出台数		1,000,256	1,117,539	1,019,213	459,357	88.5	88,085
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	1,041,992	104.8	176,134	
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	906,165	101.8	154,317	
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	436,178	105.3	65,803	
【完成車輸出金額】			(百万バーツ)					
四輪			619,348	719,992	699,163	314,371	86.5	57,440
二輪			73,729	68,589	63,969	31,728	96.9	5,074

出所：タイ工業連盟 (FTI)

